

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

第18号

発行日
2023年3月



発行 さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

さがみはら生物多様性シンポジウム

身近な生物多様性を考える ～次世代へつなぐために～を開催しました！

令和5年2月25日(土)相模原教育会館にて

第Ⅰ部 基調講演 「うなぎの未来」

ー生態と食卓の調査から持続的利用を目指すー
北里大学海洋生命科学部教授 吉永 龍起 さん



人類は、昔からウナギを食べ物や信仰の対象としてきました。それは、日本でも同様で、地方によっては100以上の呼び名が存在します。また、昔からある「鰻屋」は、様々な魚を出す寿司屋と異なり、ウナギしか出しません。ウナギは、それだけで商売が成り立つ魚であり、特別な存在なのです。

このように、ウナギは昔から日本人にとってなじみの深い魚です。しかし、その一生は、長い間謎に包まれていて、約50年にわたる海洋調査でようやくその生態が明らかになってきました。ウナギは川魚と思われがちですが、海で生まれます。日本に生息しているウナギはニホンウナギですが、フィリピン海のグアム島付近で生まれ、5cmほどの小さな体ではるか3000キロにもおよぶ旅をして台湾、韓国、中国、日本へやってきます。そして10年ほど河川で過ごして成長したウナギは、再び海に帰って繁殖し一生を終えます。近年の気候変動や乱獲、川の取水堰(しゅすいせき)などの影響でシラスウナギは数を減らしており、私たちが食べているニホンウナギ、ヨーロッパウナギは絶滅が危惧されています。

私たちの食卓に運ばれるウナギは養殖ものですが、実は卵から育てているのではなく、海から川の河口にやってきたシラスウナギを捕まえて育てたものです。土用の丑で出回るウナギの数はシラスウナギがやってくる2月頃に決まりますが、今年も数が減ることが予想されます。

このようなウナギの危機的状況はフィリピンのとある先住民の暮らしにも影響しています。狩猟民族の彼らは川で捕ったウナギを燻製にして生活に必要なものと交換するために必要な分だけしか捕っていません。その一方で、川の河口ではシラスウナギが乱獲されており、そのウナギの蒲焼きが日本に輸出され私たちの食卓に運ばれているのです。川でウナギが捕れなくなると、その村で生活する子供たちの未来が奪われることになります。このように、実は私たちの生活と遠い土地で暮らす子どもたちの未来は、つながっているのです。

第Ⅱ部 活動事例発表

●「ビッグヒストリーから生物多様性を考える」

桜美林大学リベラルアーツ学群・片山博文ゼミ(ビッグヒストリー)

佐藤 舞さん(4年)

ビッグバンから人類史について学び現実に適用することをテーマに活動しています。今回の発表では、生物多様性の起源カンブリア紀から見た世界、専門書の紹介、博物館展示の分析、提案をしました。

●「なぜなに？生物多様性」

さがまち学生Club 相模女子大学樋口愛弥さん(2年)、小松杏珠さん(2年)

和光大学 大淵凧生さん(3年)

所属大学も学年も異なる学生同士が集まり地域の活性化及び、まちづくりに繋がる活動しています。今回の発表では、さがみはら生物多様性ネットワークとコラボし、生物多様性を守るためのアクションを考えました。

【参加した方の感想】

- 今日の話を家族や友達に伝えることから生物多様性を守る取組をしていきたいです。
- うなぎを初めて食べたときのことを思い出しました。また食べることがあったら今日学んだことを思い出しながら食べたいです。



会員活動 紹介

団体会員 NPO 法人 緑のダム北相模

info@midorinodam.jp



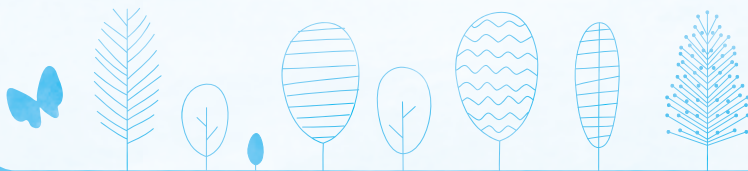
特定非営利活動法人「緑のダム北相模」は相模原市内、相模湖近辺の民有林を中心に森を整備する活動を行っています。毎月第1、第3日曜日にJR相模湖駅に集まり、徒歩でいくつかのグループに分かれて作業しています。森の作業は主に、間伐という森を健康にするため木を切る作業や、果樹を中心とした斜面の整備、竹林、畑の活動なども行っています。特に間伐は20mくらいのスギやヒノキを倒しますが、倒れたときの音と振動、迫力に夢中になる方が続出中です。参加者は中学生からシニアまで、老若男女が集い、年代や立場を超えて協力し活動しているのも本会の特徴です。森づくりだけでなく、間伐材をいかす活動や、体験イベントなども実施しています。その中で、里山保全活動が環境省の冊子「日本の里地里山～自然を活用した解決策として～」に紹介されました。誰でもお気軽に参加いただけます、ホームページ (<http://midorinodam.jp>) からぜひどうぞ。



作業前



作業が進み多様性が戻りつつある森



最新 NEWS!

今度こそ達成を！

「昆明－モントリオール生物多様性枠組み」が採択

一般社団法人コモンフォレストジャパン理事 坂田 昌子



2022年12月、第15回生物多様性条約締約国会議(CBD COP15)において、昆明－モントリオール生物多様性世界枠組みが採択されました。CBD COPでは、生物多様性の損失を止めるための目標や行動計画を10年ごとに更新するため、今回は特に重要な会議でした。枠組みの内容は多岐にわたりますが、特に重要なのは2030年までの23の行動計画ですが、これは2010年CBD COP10で採択された20の愛知目標が、全く達成できなかったことの反省に基づいています。そのため今回は目標の数値化や進捗状況についての指標も設けられました。愛知目標で数値化されたものは3つに対して、今回は9つとなり、陸海それぞれ30%が保護区、自然再生を30%実現、外来種半減、ビジネスの影響半減、農薬半減などがあります。現在、日本も生物多様性国家戦略を大きく改定中ですが、2030年までに目標をクリアする推進力は、生物多様性の現場である地域の取り組みにかかっています。



会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

年会費…1口1,000円
個人・団体会員/1口以上 事業者会員/2口以上



ポータルサイト

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/seibutsu/index.html>

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

住所：相模原市中央区中央2-11-15

電話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp